

Q-AOS Brown Bag Seminar #7 質問に対する回答

※個人情報に関わる表現等を削除させて頂いております。ご了承下さい。

質問 1:

日本で、経済と社会・文化・人間性において良いバランスが取れている都市の成功事例はありますか？ どういう風に成功していますか？

最も成功している事例は横浜市だと思います。交通、産業施設、ビジネス誘致などの経済インフラを整備しただけでなく、外国人居住者の教育、文化、生活支援など多文化政策にも積極的に取り組んでいます。しかしながら横浜は税収が大きく資源が豊富なためそういった事を行うことが出来るという側面があります。結局この問題は、限られたリソースで何を優先するかという問題に行きつくと思います。

質問 2:

国際化における経済的領域と比較して、社会的および文化的領域の例をいくつか挙げていただけますか？

前の回答（質問 1 の回答）はこの質問にも当てはまります。横浜市には、日本人と外国人の文化交流、外国人のための教育、言語、医療支援などのプログラムが数多くあります。公的サービス以外にも外国人を支援する NPO（非営利団体）が多数存在します。

質問 3:

質問 1 と同様の質問になりますが、国際化とローカリゼーションのバランスが取れている都市の成功事例はありますか？ どういう風に成功していますか？

日本の地方自治体にとっての国際化の重要な課題は、国際化による地域の経済・社会の活性化です。経済面に限って言えば、横浜だけでなく福岡も成功例です。このような自治体は日本にも数多く存在します。しかし先にも述べましたように、外国人居住者の生活環境の質を含め、「社会の国際化」を実現している自治体は少ないのです。これは、経済的見返りが保証されない社会サービスに人的・財政的資源を投入できる自治体が限られているためです。

質問 4:

姉妹都市となる条件を教えてください。福岡市の姉妹都市は世界でいくつありますか、またその国は？

福岡市は 8 都市と姉妹都市提携しています。姉妹都市は交流を目的としていますが明確な基準や定義はありません。福岡市は 2016 年にミャンマー・ヤンゴン市と姉妹都市提携を締結しました。以前に姉妹都市提携を締結したアトランタ市から数えて 11 年ぶりのことです。福岡市は必ずしも姉妹都市交流に積極的ではなく、姉妹都市交流の締結は必ずしも交流の深さを示す指標にはならないと考えます。



質問 5:

福岡市の国際化活動の専門家や専門家の数が少ないと活動は活性化されません。マンパワー強化がかなり重要です。実行するための基本的なパワーについてどう思いますか？

ええ、人材は非常に重要です。人材育成には長い年月と莫大な費用がかかります。福岡市が経済交流を優先するのは当然ですが、同時に市民交流や社会の国際化に力を入れなければ十分な規模と能力を持った市民セクターの育成はできません。経済交流を促進しつつ、社会・文化交流の人材を育成する市民セクターを育成することが、今の福岡の課題であると思います